

2024年12月期 第1四半期決算説明会 Q&A

日時：2024年4月30日（火）18:30～19:20

No	項目	Q	A
1	全体	1Qで為替による増収があるが、今後も為替変動による業績予想修正の可能性はあるか？	為替：現在1ドル=135円で見ている。昨今の為替動向を見る限り更なる修正の可能性はある。
2	全社	粗利率が過去に比べて高い水準となっている要因はなにか。	上半期：費用のずれと操業益が主な増益要因となっている。
3	全体	1Qの利益は想定内か？	想定以上となった。要因は売上、費用計上の時期ずれ、為替変動によるものであり、通期でみればインラインと考えている。
4	全社	資料のP6にある製品構成差は今後も続く可能性があるか。	主に精密減速機の構成であり、産業用ロボット向けの比率よりFA向けの比率が増加したことによるもの。1Q発現分は通期でもポジティブな影響として残ると想定。
5	全社	Project10の進捗は？	Project10の活動を継続している。1Q決算ではまだ成果が顕在化していないが、本年のどこかで計画に盛り込みたい。
6	CMP	2024年1Qと比べ2Qの計画では売上が増加する一方、営業利益は減益となる背景を教えてください。	1Qは発現予定の経費が2Q以降にずれたことや製品構成差、スエズ運河の混乱の影響による受注増加に伴う稼働益があった。また油圧機器では垂井工場の建替えによる生産の前倒しによる稼働益が入ったことも1つの要因。
7	CMP	2024年1Qは2023年4Qと比べて売上の減少幅に対して営業利益の減少幅が限定的であるのはなぜか。	価格転嫁とコスト削減が進んでいることに加え、発現予定の費用が2Q以降にずれていることが主因。
8	精密減速機	スエズ運河混乱による先行発注はどのくらいあるのか。実需としても伸びているのか？	スエズ運河混乱により、輸送期間が延びることにより欧州顧客から2-3週間分に相当する受注が増加した。これを除くと前四半期比で実質5%の受注の伸びとなった。受注額の増加はほぼ期首想定範囲内の伸びとなっている。

9	精密減速機	需要環境に変化はあったか？	<p>産業用ロボットメーカーから、大きな需要の波が来たという声は少ない。産業用ロボットの完成在庫のなかでも在庫消化が進んでいるものと、そうでないものがある。</p> <p>期首に想定した 2024 年下期からの回復基調や 25 年に本格的な需要回復の波が来るという見方は変えておらず、回復の顕在化に期待している。</p> <p>それに備え、浜松工場で高自動化ラインを稼働させ収益性向上への貢献もはかる。</p>
10	精密減速機	国内、海外工場の稼働率は 2Q 以降回復してくる見込みか？	第 1 四半期が底で、2Q、3Q と徐々に増えていくと見ている。
11	精密減速機	下期の受注回復の主要因は、在庫調整の解消によるものかエンドマーケットの回復のどちらか？	在庫調整の解消によるものだけではなく、エンドマーケットの需要の戻りも想定している。最終市場としては、EV に限らず HV や ICE を含む自動車向けの需要が回復すると見ている。
12	ACB	ACB の 1Q 売上が前年同期比で増収となった要因は、為替影響と国内向け売上の前倒し影響どちらが大きいか。	国内の前倒し影響の方がやや大きい、為替も増加額の半分程度。